

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	11
1. 理念の共有		2
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		3
5. 人材の育成と支援		2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		6
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		11
1. その人らしい暮らしの支援		9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		30

事業所番号	4671400143
法人名	社会福祉法人 長和会
事業所名	恵光園グループホーム さくらの里
訪問調査日	平成21年11月13日
評価確定日	平成21年12月7日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4671400143
法人名	社会福祉法人 長和会
事業所名	恵光園グループホーム さくらの里
所在地	垂水市本城217番地 (電 話) 0994-32-1881
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号南光ビル303号
訪問調査日	平成21年11月13日

## 【情報提供票より】(平成21年10月1日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成15年9月12日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤	13人, 非常勤 人, 常勤換算 12.5人

## (2)建物概要

建物構造	木造ルーフィング葺		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	16,200 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 290 円
	夕食	290 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

## (4)利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	5 名	要介護2	5 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	名		
年齢	平均 84.7 歳	最低	72 歳	最高	98 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	ふくまる皮フ科 垂水温泉病院 川畑歯科医院 桑波田診療所
---------	------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体法人の特別養護老人ホームに併設して開設されたホームであり、周囲の桜並木は花見の名所として住民の憩いの場となっている。毎年の夏祭りには、地域から1000人以上の方々に参加され、職員の多彩なアトラクションで大いに盛り上がるなど、地域との交流も盛んである。また、垂水市グループホーム連絡協議会の設立にも大きく尽力するなど、地域や行政、同業者との連携にも積極的に取り組んでいる。法人全体の研修体制が充実しており、資格取得のための勉強会も実施するなど、職員の育成に力を注ぎ、さらなるサービスの質向上を目指している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回、地域密着型サービスとしての理念や同業者との交流を通じた向上について課題となったが、その後前向きな取り組みが行われており、地域のグループホーム連絡協議会の発足にも大いに尽力している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価については、ユニット毎にスタッフからの聞き取りを行い、主任が取りまとめた上で管理者が総括を行っている。前回の外部評価結果は、スタッフ会議で管理者が内容説明を行い、改善へ向けて取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議には、ご家族の代表をはじめ、地域代表としての市議会議長、老人クラブ連合会長、市商工会事務局長、駐在所長等、行政からは市保健福祉課や地域包括支援センター職員の出席があり、定期的開催されている。会議では事業報告、利用者状況、外部評価結果の報告等が行われている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	相談窓口の設置についての掲示がなされ、意見を出しやすい環境づくりが行われている。ご家族の意見等を運営に反映させるために、入居時の説明に加えて、運営推進会議等も活用しながら、より多くの意見等が出されるように継続的な働きかけを行っていただきたい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	法人主催の夏祭りには、地域住民のほか、他の施設や保育園、各種団体等から1000人ほどのの方々に参加されて交流が行われる。また、中学生の職場体験学習や、小学生のボランティア訪問も行われている。

## 2. 評価結果詳細

(   部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「いつでも どこでも その人らしく」という理念のもと、運営方針の中に「地域の中で暮らせるように…」という文言が盛り込まれている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に掲示されているとともに、毎月のスタッフ会議の中で唱和して職員全員への意識付けが行われている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人主催の夏祭りには、地域住民のほか、他の施設や保育園、各種団体等から1000人ほどの方々が参加されて交流が行われる。また、中学生の職場体験学習や、小学生のボランティア訪問も行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、ユニット毎にスタッフからの聞き取りを行い、主任が取りまとめた上で管理者が総括を行っている。前回の外部評価結果は、スタッフ会議で管理者が内容説明を行い、改善へ向けて取り組んでいる。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には、ご家族の代表をはじめ、地域代表としての市議会議員、老人クラブ連合会長、市商工会事務局長、駐在所長等、行政からは市保健福祉課や地域包括支援センター職員の出席があり、定期的開催されている。会議では事業報告、利用者状況、外部評価結果の報告等が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は市役所に出向き、担当者と相談等を行う機会を持つようにしている。また、運営推進会議の前後に、市担当者にホームの見学をしてもらう機会を設けている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	3ヶ月毎に「さくらの里だより」を発行し、利用者の暮らしぶりや行事の様子を郵送している。金銭管理については、ご家族に「出納帳」を2ヶ月に1回確認してもらっている。健康状態に関しては、細かな連絡や緊急性のあるものについては、直接電話で報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口の設置についての掲示がなされ、意見を出しやすい環境づくりが行われている。		ご家族の意見等を運営に反映させるために、入居時の説明に加えて、運営推進会議等も活用しながら、より多くの意見等が出されるように継続的な働きかけを行っていただきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係が重要であることを理解した上で、法人内の異動が行われている。また、入職当初の夜勤は、2人体制で行うようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任職員については、研修マニュアルやカリキュラムが準備され、日々の研修実施記録が残されている。法人内研修は、年間計画に基づき毎月実施されており、テーマの募集も行っている。外部研修については、グループホーム連絡協議会等が実施する研修に参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	平成20年に垂水市グループホーム連絡協議会が設立され、管理者および職員の交流や情報交換、協議会主催の研修会を通じてサービスの質向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には、ご家族にホームの見学をしてもらっている。また、利用者本人が入院している場合等は、入院先からの情報提供に加えて、管理者が出向いて直接情報を得るように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活歴等を踏まえて、料理や漬け物づくりを一緒に行っている。介護されるだけの立場に置かず、利用者と共に支え合いながら過ごすことのできる関係づくりを行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント時に「私ができるように支援してほしい事」という項目を用い、暮らし方の希望や意向の把握を行っている。本人の意思表示が困難で、ご家族からの情報等も得られない場合は、本人の表情や態度から読み取って把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	個別ノートを用いて利用者の情報収集を行いやすいようにしており、必要に応じて関係者とも話し合いながら介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には、有効期間に合わせて見直しを行っている。利用者の状況に変化が生じた場合は、必要な関係者と話し合いながら、現状に即した計画の見直しが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	買い物や病院受診、墓参りや美容院までの移動等、その時々々の要望に合わせて臨機応変に支援が行われている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人およびご家族の意向を基にかかりつけ医が決められ、定期、緊急を問わず、適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	必要時に、かかりつけ医も含めた必要な関係者と話し合いを行い、方針を定めてケアを行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー保護や個人情報に関する研修を実施している。カルテをはじめとする個人の記録類は、事務所において適切に管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の日課はあるが、食事の時間等は個々人に合わせて対応しており、本人のペースを尊重して生活できるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえや配膳、下膳、調理方法のアドバイス、味の確認等、利用者の力に応じて参加できるように配慮している。その日のメニューをカウンターに掲示したり、時には園庭で昼食をとるなどして、食事が楽しみなものになるように工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日は決めているが、回数や順番は必要性や希望に応じて変更している。入浴拒否傾向の利用者も居られるが、タイミングを見計らいながら声かけを行うなど、工夫しながら支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かして、洗濯物たたみや料理を手伝っていただいたり、漁師をされていた方に魚をおろしてもらったり包丁を研いでもらうなど、それぞれの力が発揮できるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	定期的なドライブや花見、足湯などを楽しんだり、買い物や病院受診にも出かけており、日常的に外出の機会が多い。広々とした園庭では、自由に散歩することができる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の施錠は行われていない。利用者の状態によっては、「在園確認表」でチェックして状況を確認することで、鍵をかけないケアを実践している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	特別養護老人ホームと合同で、年2回の避難訓練が実施されており、緊急時の応援体制も整っている。ホーム独自でも、夜間を含む避難訓練を年2回実施している。また、水害に対する設備や対策も整備している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事と水分のおおまかな摂取量がわかるように、チェック表に記録が残されている。毎月、法人内の管理栄養士により、栄養バランス等に関するチェックやアドバイスを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには畳のスペースやソファ、食事等で利用するテーブル等が設置され、自由にゆったりと過ごせる空間づくりが行われている。明るく大きな天窓があり、光が入り過ぎないように調節も行われている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスを持ち込んだり、ご家族の写真を飾るなど、利用者のADL等に合わせて、安全で居心地のよい生活ができるような空間づくりを支援している。		